



MDP

2023 J LEAGUE YBC Levain CUP

2023 JリーグYBCルヴァンカップ
グループステージ第1節

@駅前不動産スタジアム

MATCHDAY PROGRAM
サガン鳥栖オフィシャルマッチデープログラム

2023 Season | VOL 03

03.08 [WED]
19:00 KICK OFF
vs 北海道コンサドーレ札幌



©1996 CONSADOLE

MF
Taichi KIKUCHI

23

見える景色の確かな変化。
菊地泰智は前だけを
見続ける。

見える景色が変わってきた。プロ2年目を迎える菊地泰智は自身に起こっている変化に確かな手ごたえを感じている。ルーキーイヤーの昨季は公式戦32試合に出場。同期の仲間たちが他クラブへ出場機会を求めて、武者修行を選択する中、シーズンをとおしてサガン鳥栖で戦い抜いた唯一の存在になった。ただ、大きな宿題を残してしまった。それはゴール、アシストという得点に関与する仕事ができなかったことだ。菊地自身、優れたポジショニングセンスと高い技術を兼ね備えた選手だが、やはり、得点に関与することができなければ相手にとって“怖い選手”にはなれない。それを自覚しているからこそ、得点への意識を強めてきた。

その中で変わってきたのは常に前を見るようになったことだ。ボールを持ったとき目指すべき相手のゴールは自分の前にしか存在しない。これまではボールを持てば、しっかりと仲間につなぐ。決して間違っていないが、安全な選択でもあった。ただ、そればかりではゴールに近づくことはできない。そんな自分を少しずつ変えてきた。「練習でも決めきることは意識している」。その積み重ねで「ゴールがふと目に入ってくる場面が増えた」と話す。「意識し続けてきたぶん、ゴールに向かうためのトラップができている。味方を使うというよりもゴールに向かうから顔を上げたらゴールが見える」。意識して取り組んできた成果は徐々に無意識にできるようになりつつある。ならば、あとは成果を手にして、自身の成長を実感したい。「自分が成長しているなという実感を手にしたいという気持ちはめちゃくちゃある」と本人もゴールという結果を強く望んでいる。J1第3節名古屋グランパス戦、決勝点につながるコーナーキックを呼び込んだのは菊地の「自分で絶対に行く決めて実行した」シュートだった。「焦ってはいないけど早く結果を出したい」。ゴールまでの“あと少し”を乗り越えるために、ゴールネットを揺らした瞬間の光景を現実のモノにするために。菊地は前を見続ける。